

## 銀行業のこれからを考える

### 0. はじめに

戦後から銀行は預金を集めてそれを企業に貸し出すこと(間接金融)によって収益を上げてきた。しかし経済成長が終わった現在では資金を運用することが難しく、その手法では金融機関が立ち行くかどうか疑問である。この勉強会では金融機関がどう生き残っていくかについて考えたい。

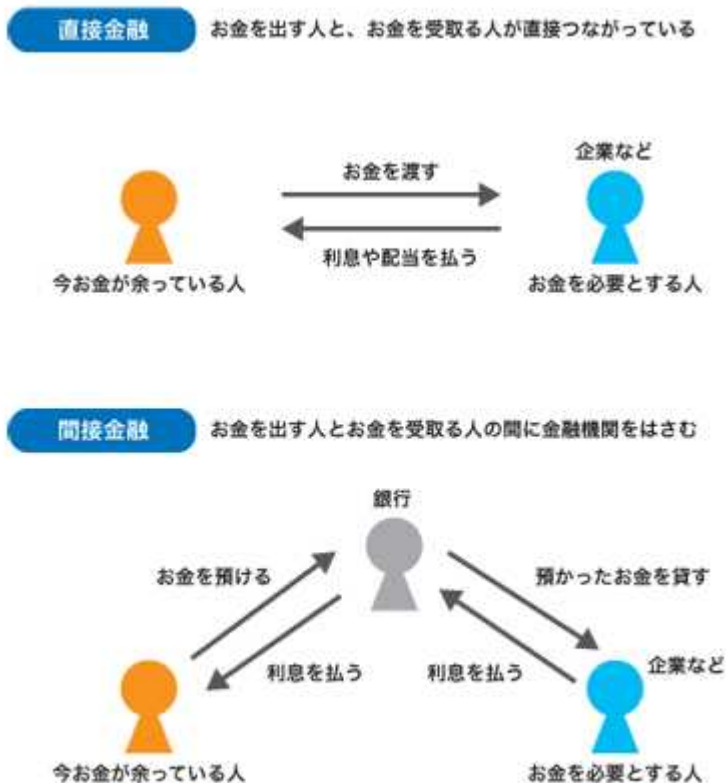
### 1. 準備的整理

直接金融・・・企業が必要な資金をお金を持っている人から直接調達      E × 社債など

間接金融・・・企業が銀行から資金を調達      E × 銀行貸し出し

ポイント      調達手段ではなく、何から資金を調達しているかが重要

E × 金融機関が社債を購入した場合は間接金融



金融には債務不履行のリスクがあるが直接金融は個人がリスク負担

### 間接金融は銀行がリスク負担

銀行の意義とは？

情報生産機能(取引企業の情報を収集) 「情報の非対称」問題  
事前的情報生産(融資するに適當かの判断)  
事後的情報生産(資金が適切な目的で使われるか)  
個人がこれらを負担すると多大なコストがかかるために銀行が資金を大量に集めて金融を行ったほうが都合がよい。

#### リスク負担機能

個人に代わって金融を仲介し、リスクを負担  
リスク削減のために分散投資 多大な情報生産コストを規模の経済を生かすことでカバー

## 2. これまでの日本の金融(相対型間接金融)

### ・金融取引の形態

相対型(あいたい型)・・・取引相手を特定した金融取引、当事者間で条件決定が行われる  
「銀行(間接金融)を中心とした金融システム」

市場型・・・不特定多数の貸し手が借り手に対して貸す。

「資本市場(直接金融)に基礎を置く金融システム」

「銀行を中心とした金融システム」(相対型)は経済の成長期に有用

- \* 事後的な情報収集(資金が適切に使われるか)に優れる
- 経済成長期は有用な投資が何かは社会的に共通認識があるため事前的な情報収集の必要性は低く、適切に使われるかが相対的に重要

「資本市場に基礎を置く金融システム」(市場型)は経済の成熟以降に有用

- \* 事前的な情報収集(資金を提供するに足るか)に優れる

経済の成熟以降は有用な投資が何かは予想しにくいので事前的な情報収集の必要性が高い

金融取引の形態	イメージ	適する時期	債務不履行リスク	取引関係	情報生産
相対型	間接金融	経済成長期	銀行に集中	長期的	銀行・単一的視点
市場型	直接金融	経済成熟期	様々な主体に分散	短期的	市場・複座的視点

日本は戦後から銀行を中心とした相対型間接金融が主だった。  
経済成長に伴う投資行動で企業は常に資金不足であったために、銀行は預金を集めて企業に貸していれば預金高に比例して利潤を上げることが出来ていた。

庶民の貯蓄→銀行預金→大企業の投資資金

\* 護送船団方式

預金金利規制による競争制限

都市銀行 大企業

地方銀行 中小企業

信用金庫

というような業務のすみわけがなされていた

しかし・・・

### 3. 相対型間接金融の閉塞

経済の成熟による資金需要そのものの低下

直接金融手段の登場

転換社債・・・一定の条件の下で株式に転換できるタイプの社債

ワラント債・・・社債を購入したものにその社債の一定割合を限度に新株の発行を請求し、それを買い付ける権利をもつ社債

大企業を中心にこれらのような直接金融手段が目立ち始めた。

結果として銀行はカネあまりによって預金の運用が困難になり、リスクの高い投資を行うことに

#### 4. リスク集中の危険 金融システムの安定の観点から

リスクが銀行に集中することは危険 金融システムの維持のため

金融システム・・・資金の受け渡しや貸し借りを行うしくみ

決済が不可能になれば経済そのものが機能できなくなる。

銀行取付 信用不安で銀行預金が引き上げられ金融システムを阻害

リスク分散のために

#### 5. 市場型間接金融の提案

市場型間接金融・・・間接金融ではあるが、様々な主体(企業・個人など)にリスクを転化

具体的手段

投資信託

顧客から資金を預かり、運用益を還元する(顧客の自己責任)

シンジケート・ローン

複数の金融機関・投資家が企業に対して同一の条件で投資(投資リスクを分散)

証券化

貸付債券を投資家に売却(リスクを移転)

おわりに

銀行の持つ「公」と「私」

#### **【参考文献】**

岩田規久雄 1999 『金融入門』 岩波新書

岡村秀夫・田中敦・野間敏克・藤原忠敬 2005 『金融システム論』有斐閣コンパクト

池尾和人 2006 『開発主義の暴走と保身』 NTT出版

池尾和人 2006 『市場型間接金融の経済分析』 日本評論社

伊藤修 2007 『日本の経済』 中公新書

宮崎義一 1992 『複合不況』 中公新書

日本銀行HP <http://www.boj.or.jp/>